

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察特殊報について

平成30年度病害虫発生予察特殊報第7号を発表したので送付します。

平成30年度病害虫発生予察特殊報第7号

1 害虫名 : オオセンダンヒメハマキ

2 学 名 : *Dudua aprobola* (Meyrick)

3 発 生 地 域 : 沖縄本島

4 発 生 作 物 : マンゴー

5 発生確認及び発生状況

- (1) 平成29年9月に沖縄本島中部、北部のマンゴー施設において、新葉の葉巻(図1)、2~3枚の葉が綴られ食害された新葉(図2)が確認された。葉巻の中からチョウ目幼虫を採集し(図3、4)、羽化させた成虫(図5)について同定依頼した結果、(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所および横浜植物防疫所によりオオセンダンヒメハマキ *Dudua aprobola* (Meyrick)と確認された。
- (2) 収穫後の新葉の発生が停止して以降は発生がなかったが、平成30年8月、前年度と同じ施設において、再び収穫後の新葉の加害及び本種の発生が確認された。
- (3) 本種は南大東島、西表島、小笠原諸島に分布することが報告されているが、マンゴーでの被害は国内初確認である。国外では台湾、中国、東南アジア、インド、オーストラリア等に分布する。
- (4) 平成30年9月、沖縄本島北部、中部、南部農業改良普及センター(課)が計45施設で調査した結果、被害は確認されなかった。

6 形態及び生態

(1) 形態

成虫は開張17~20mm。前翅は灰褐色で、前縁に大きな黒褐色の紋をもつ。

(2) 生態

詳しい生活史は明らかになっていない。海外ではマンゴー以外のウルシ科の他、バラ科、ヤナギ科など様々な植物で幼虫の被害が確認されている。

7 防除対策

- (1) 次年度の結果母枝となる新梢を確保するため、被害が大きい場合は、果樹類のハマキムシ類に登録のある薬剤を散布する。老齢幼虫には効果が劣るため、間隔において複数回散布する。
- (2) 本種幼虫の加害新葉を除去する際はビニル袋等に入れ、施設外で処分する。
- (3) 防虫ネットに破れがあれば補修し、成虫の侵入を防ぐ。



図1. 新葉の被害の様子(葉巻)



図2. 重ねて綴られた新葉



図3. 若齢幼虫



図4. 老齢幼虫



図5. 成虫

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★
TEL: (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933
ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>